

2024年 厚木一番街



アツギイチバン街 1982-2024



2003年 厚木一番街

昭和47年2月1日撮影

記録写真集

厚木青年会議所

この度は、「定点アルバムPDF書籍」をお読みいただき、誠にありがとうございます。

厚木青年会議所は1969年の創立以来、長年にわたり厚木市・愛川町・清川村の3市町村でまちづくりを続けてまいりました。この定点撮影は1972年に開始され、50年以上続く厚木青年会議所の中でも最も歴史のある継続事業です。初版のアルバムは昭和47年に発行され、現在では厚木市立図書館に保存されていますので、ぜひそちらもご覧ください。

本アルバムを通じて、厚木市の発展を身近に感じていただくとともに、今後のまちづくりにおける参考資料としてご活用いただければ幸いです。今回はより多くの方に定点アルバムを知っていただきたく、PDF書籍としてまとめました。また、過去に厚木青年会議所が行ってきたまちづくり運動の資料も掲載しておりますので、ぜひ最後までご覧ください。

公益社団法人厚木青年会議所
2024年度 まちづくり委員会

目次

景観撮影

1. 本厚木駅北口交差点ミロード前
2. 本厚木駅北口駅前広場
3. 本厚木駅北口タクシー乗り場
4. 本厚木駅南口
5. 本厚木駅東口交差点（なかちょう大通り商店街）
6. 厚木市立病院前
7. 本厚木駅南口農協屋上①
8. 本厚木駅南口農協屋上②

事業紹介

1. マラソン構想委員会主催 絆リレー
2. まちのみらい育成委員会主催 なぞ解きイベント
3. JCフェスタ あゆコロちゃんと水防災体験スタンプラリー
4. 50周年事業 キミの夢応援プロジェクト
5. あつぎ鮎まつりDREAMフェスタ2024



本厚木駅北口交差点ミロード前



現代（2024年）



1980年代

本厚木駅北口ミロードは、1980年代に開業し、地域の商業の中心地として発展してきました。当初はデパートや専門店が集まる商業施設として機能し、多くの利用者を引きつけました。1990年代以降もリニューアルを繰り返し、時代のニーズに合わせた店舗展開が行われました。現在では、地元住民や観光客にとって欠かせないショッピングエリアとなっています。

本厚木駅北口駅前広場



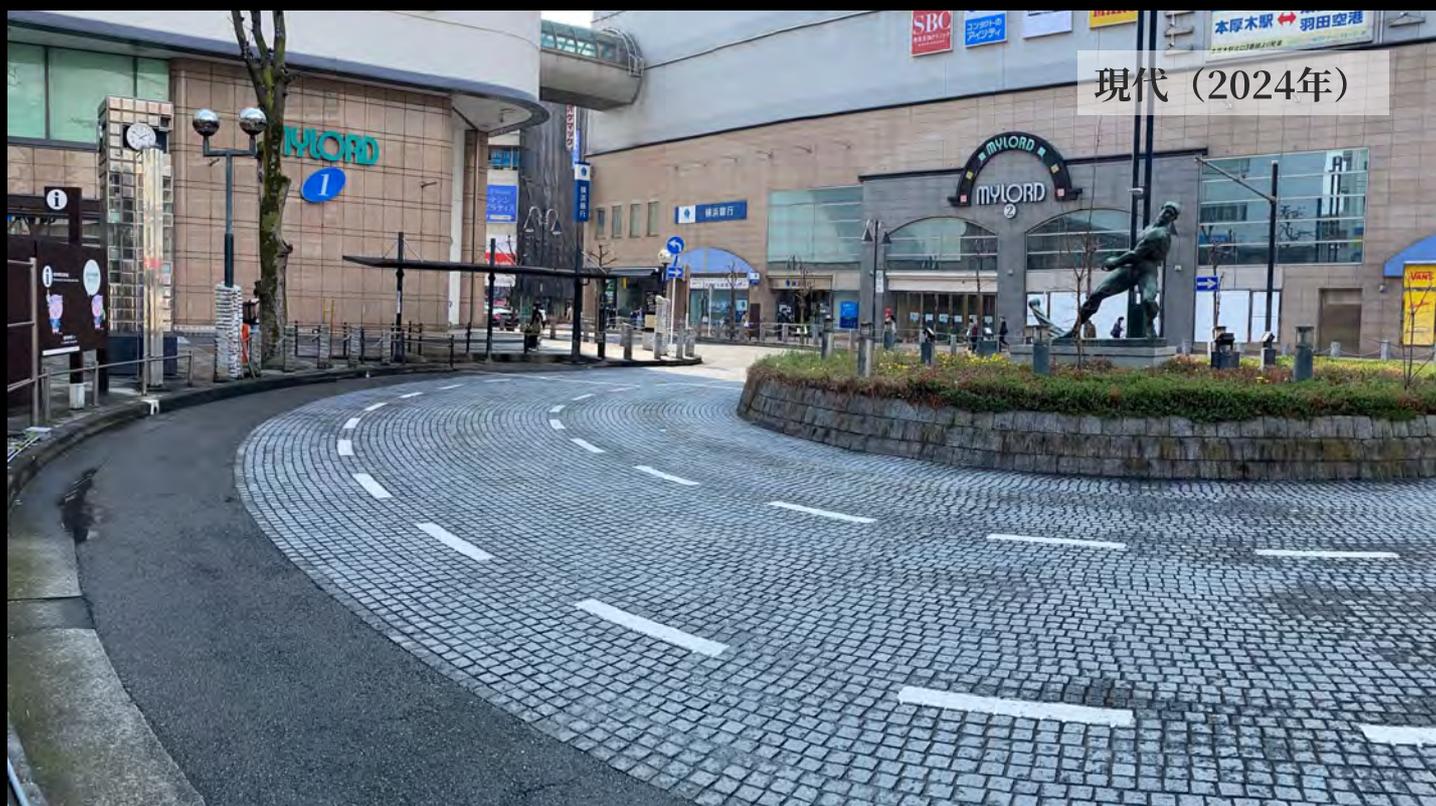
現代（2024年）



1980年代

本厚木駅北口広場は、かつて路上ライブが盛んに行われていた場所で、多くのアーティストたちがその才能を披露していました。中でも、厚木市出身のいきものがかりは、1999年11月の結成以来、この駅前頻りに路上ライブを行い、地元の支持を受けながら成長していきました。

本厚木駅北口タクシー乗り場



厚木市制 50 周年を記念して設置されたモニュメント時計「アユポ」は、平成 17 年に設置されました。「アユポ」という名前は、厚木市の名産である「アユ」と場所を示す「ポイント」の「ポ」を組み合わせて名付けられました。この銅像はタクシープールの中央にあり、ハンマー投げをする男性を描いています。タイトルは「若き心」で 1977 年（昭和 52 年）に彫刻家・難波孫次郎氏によって制作されました。

本厚木駅南口



現代（2024年）



1980年代

南口は長年の間、バスやタクシーのロータリーというイメージが定着していました。
しかし再開発により、現在では公共・商業・住宅が一体となった複合施設「本厚木ミハラス」が完成し、複合的な都市機能が整備され、魅力的な駅となりました。

本厚木駅東口交差点（なかちょう大通り商店街）



現代（2024年）



1980年代

1980年代から1990年代にかけて、なかちょう大通り商店街は再開発と近代化が進み、アーケードの設置や歩道の整備、バリアフリー化が行われ、多くの人々が訪れやすい環境が整いました。地元のイベントや祭りも盛んに開催され、地域のコミュニティ活動の拠点として機能しています。

現在では、高層マンションの建設などにより、街の姿が変わりつつあります。

現代（2024年）



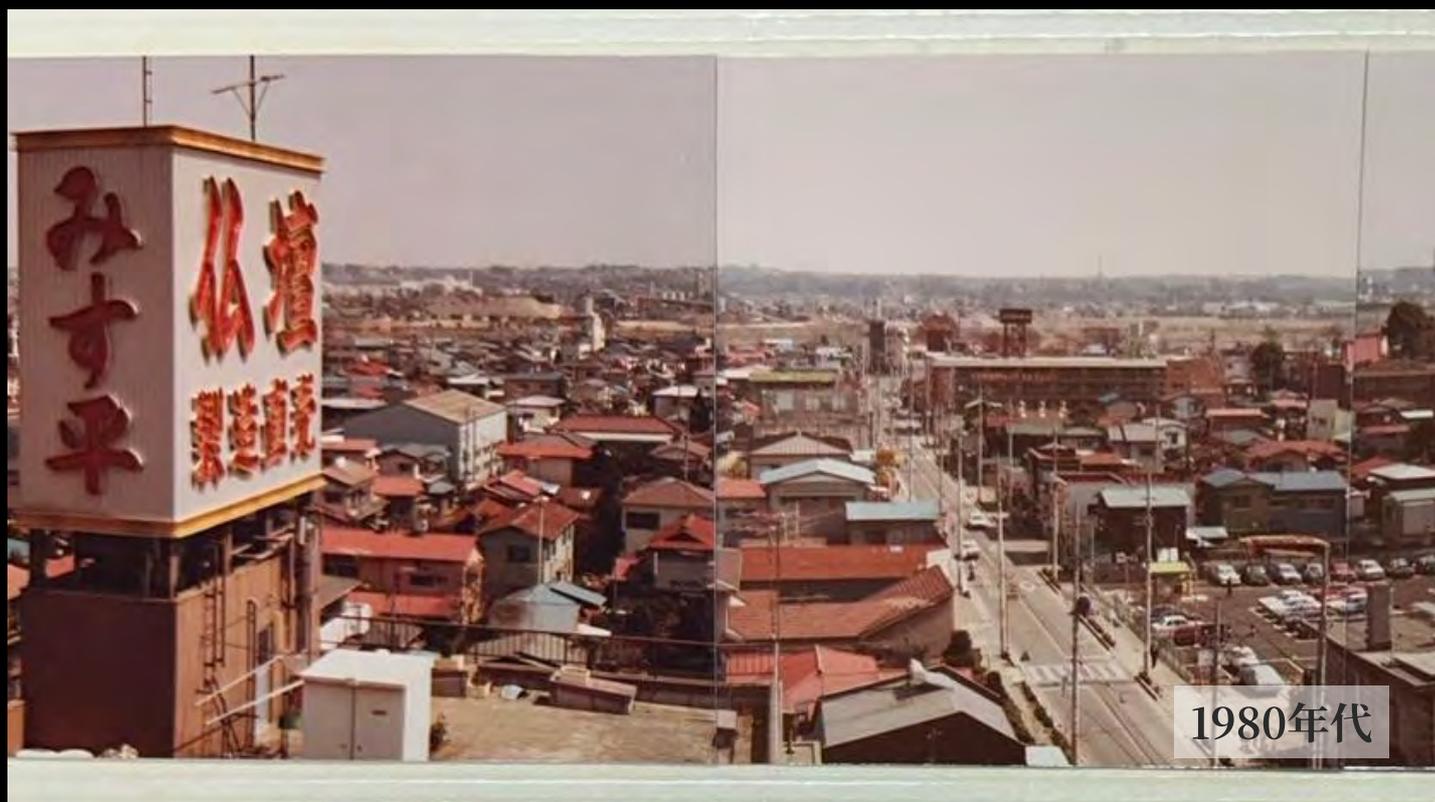
1980年代

厚木市立病院は1951年に神奈川県立厚木病院として開院しました。2003年には神奈川県から厚木市に経営が移譲され、厚木市立病院として再スタートしました。病院施設の老朽化と狭隘化が進んだため、2010年に新病院施設の建設が始まり、2016年には新病院施設が完成・稼働を開始しました。

本厚木駅南口農協屋上①



現代（2024年）



1980年代

本厚木駅南口は、厚木市の発展とともに重要な商業・交通の拠点として進化してきました。1927年の駅開業当初、南口エリアは開発が遅れており、閑散とした住宅地や小規模な商店が点在していました。しかし、1950年代から1970年代にかけての高度経済成長期に開発が進み、人口増加に伴い商業施設やサービス業が増加しました。

本厚木駅南口農協屋上②



現代（2024年）



1980年代

1980年代以降、南口エリアでは再開発が進み、交通インフラが整備され、ロータリーの機能が強化されました。
現在では、商業施設やマンションが増加し、厚木市の重要な商業・居住エリアとしての地位を確立しています。

マラソン構想委員会主催 絆リレー



まちづくりの一環として、フルマラソン大会実現に向け、厚木JC内に今年度設置されたマラソン構想委員会が担当しました。13人の委員が中心となり、1年間かけて準備を進めてきました。

フルマラソン大会を想定し、約42.195Kmのコースを設計しました。厚木市役所を起点に、愛川町役場、清川村役場を中継し、ゴールの厚木中央公園まで1区間（約2Km）あたり10人程度のグループで走り、2日間かけて1本の襷をつなげました。

参加者は小学生から大人まで約200人でした。競技制ではありませんでしたので、参加者はジョギングや歩く程度のスピードで地域の魅力を確認しながらリレーを楽しみました。

まちのみらい育成委員会主催 なぞ解きイベント



ここ数年間コロナ禍により様々なイベントが中止となってしまった子供たちに笑顔をお届けしよう！ということで、1月からメンバーで小学生たちにアンケートを実施して、ゼロからメンバー全員で密を避けてできることを、と議論を重ねて企画しました。

厚木市では本厚木駅周辺の店舗などにチェックポイントを設置し、地域の歴史などのなぞを解きながら街を歩くことで、改めて街の良さや新たな発見をしてもらいました。

愛川町と清川村では、隣接している宮ヶ瀬湖を中心として、それぞれの公園を舞台に地元になんだなぞを解きながら楽しむことで、まちの良さを体感してもらいました。

それぞれ地元の店舗などにも多数ご協力いただき、延べ約3000人の方々にご参加いただけました！！

JCフェスタ

あゆコロちゃんと水防災体験スタンプラリー



2018年に鮎まつり内で開催された「JCフェスタ」において、何を発信するかをスタッフを中心に話し合った結果、西日本豪雨災害の発生や厚木市に相模川があることから、水に関する防災をテーマにすることに決まりました。

降雨車による豪雨体験、土のう積み体験、災害車両（自衛隊車両）への乗車体験、白バイへの乗車体験の4つの体験をスタンプラリー形式で実施しました。

それまでの防災活動は、東日本大震災の影響もあり、主に地震対策に重点が置かれていた印象が強かったのですが、今回は「水」に焦点を当てることにより非常に大きな反響を得られました。また、スタンプラリー形式にすることで、子どもたちも楽しみながら防災について学ぶことができたのではないかと感じています。

しかし、大量の水を扱う企画であったため、現場が水浸しになり、その処理に追われたことは反省点として残りましたが、それも良い思い出でした。

50周年事業 キミの夢応援プロジェクト



『子供たちの夢を応援したい』という思いを持つ大人たちに、ぜひ聴いていただきたい講演会を開催しました。

講師には、TEDスピーチがYouTubeで400万回再生され、大きな反響を呼んだ植松努氏をお招きしました。植松氏の講演では、『どうせ無理』という言葉が子供たちの可能性を摘んでしまうこと、そして『こうしてみたら？』と子供たちの夢と一緒に考えることの大切さが語られました。

講演会に加えて、紙飛行機の日本記録に挑戦するイベントも開催しました。子供たちが一生懸命作った紙飛行機がすぐに落ちてしまうこともありましたが、大人も子供たちと一緒に楽しみながら、親子で日本記録の62mに挑戦しました。

あつぎ鮎まつりDREAMフェスタ2024



ドリフェスは、子供たちに夢や希望を抱いてもらい、笑顔になってほしいという願いから始まりました。また、厚木のカルチャーを盛り上げ、地域の活性化を目指しています。昨年からスタートしたこのイベントは、「ドリーム×カルチャー」をコンセプトに掲げています。

昨年度、大好評だったメインイベント「灯籠上げ（とうろうあげ）」をはじめ、ET-KINGやアイドルによるライブ、キッチンカーの出店など、多彩なプログラムが展開されました。今年は約6,000人が来場し、賑わいを見せました。

あとがき

時の流れとともに移り変わる厚木市の姿を、一枚一枚の写真に収めていく過程で、私たちの街の歴史と発展の軌跡を改めて実感しました。過去の景観は先人たちの努力と想いを、現在の景観は私たちの日々の営みを映し出しています。

この写真集を手に取り、ページをめくってくださった皆様に心からの感謝を申し上げます。皆様の目に映る厚木市の風景が、懐かしさや新鮮な発見、そして未来への希望をもたらすものであれば、これに勝る喜びはありません。

本書が、厚木市の魅力を再発見し、未来へ向けての新たな視点を提供する一助となることを願っています。そして、この写真集を通じて、私たちの街への愛着と誇りがさらに深まることを心から期待しています。

最後に、本書の制作にあたりご協力いただいた全ての方々、そしてこの写真集を見守り、支えてくださった厚木市民の皆様々に心からの感謝を申し上げます。これからも変わりゆく厚木市の姿を見つめ、記録し、そして愛し続けていきたいと思っています。

本写真集をご覧いただき、誠にありがとうございます。より良い作品づくりと厚木市の未来のため、皆様のご感想やご意見を是非お聞かせください。以下のボタンからアンケートにご回答していただけます。

アンケートに回答する 

監修

公益社団法人厚木青年会議所